



編集・発行 山見妙能勢
山見妙能勢報部
〒563-0132
大阪府豊能郡野間町
電話 072-739-0329
FAX 072-739-2883

お題目の勤めあれば

植田 観肇

十月末に日本列島を襲った台風二十一号。あの夜、パリパリと屋根の銅板が剥がれる音で目が覚めた。

あの日は知人の入寺式で遠方へ出向いており、帰りの飛行機はすでに欠航が決まっていた。次の日は特に急ぎの予定も無く、留守を任せた家人からは台風の中移動するよりもう一泊してはと提案されたが、何となく虫の知らせがあり、電車で五時間かけて京都の自坊に帰り着いた。

京都には長く住んでいるが大きな台風の被害には遭ったことが無く今回も大丈夫とたかをくくっていた

た。ところが、夜中の一時頃、変事が起きた。

外へ出て懐中電灯で照らすと、本堂の北側の屋根が次から次へと剥がれていくのが悪夢のように見える。すぐに本堂へ戻り急いでご本尊や日蓮聖人のお像や過去帳に仏具などを反対の机の上に移しブルーシートをかける。続いてお塔婆やお札、果ては建具に畳も全て移動させた。その間も次々に屋根が剥がれ、夜が明けると頃には北半分は家の中なのに傘なしでは歩けない状態となった。

五日後の月例法要を考えると、絶望的な気持ちで朝を迎えた。

まず大工さんに連絡すると、忙しいにも関わらず、

すぐに応急処置のシートをかけて下さった。また、幸いなことに剥がれた屋根は人も物も何一つ傷つけることなく地面に落ちていた。数日後、雑巾で床を拭き台風一過の爽やかな空気で乾いた本堂に仏具を運び込みふと見上げると、まるで何事も無かったかのような穏やかな本堂で、日蓮聖人が温かくほほえんでおられるように感じた。

私たちはご祈祷の最後のご祈願で「大難は小難に小難は無難に」と祈る。自然災害は誰にも止めることはできないが、これだけの被害があつたにも関わらず、無事に日常を過ごせている事に、言葉にならないご加護を感じた。伝教大師曰く「家に讃教の勤めあれば七難必ず退散せん」と。このような気持ちで日々歩んでゆきたい。

《法華經に学ぶ現代》 純智庵

何が故ぞ

尊い姿の仏さま
羨しいですそのお顔
あなたのみ前で手を合わす

憂の色

私の顔は今日もまた
憂いの色が消えません

にして

お分かりでしょうかこの気持ち
どうしてくれるとは祈りません
ただ願わくば今日の目を
生きる勇気と力をば
与えて欲しいと祈るのみ
ほんの少しでいいんです。

如来を

視る

『勸持品第十三』

生きる勇気と力をば
与えて欲しいと祈るのみ
ほんの少しでいいんです。

【12月の主な行事】

- ★写経会 10日(日)11時
- ★月例祈願法要 15日(金)13時
- ★鷗様月例祭 22日(金)15時

【1月の行事予定】

- ☆正月歳始祈禱 1日〜15日
- ※歳始祈禱申込受付中
- ※開運シールの授与
- ★書初め写経会 14日(日)11時
- 北辰閣2階にて金紙に写経初心者の方もどうぞ!

- ★月例祈願法要 15日(月)13時
- 願い事を書いた兜矢を献納
- ★鷗様月例祭 22日(月)15時

- *お火焚祭りは2月11日です
- *2月まで茶論はお休み

《交通のご案内》

車でご来山は台風21号のため山上付近で一部通行止めとなっております。年末までには復旧の見通しですが、その間車でのご来山は三叉路の通行止め箇所(旧参道)を通って20分程度でご来山頂けます。詳細は電話にてお問い合わせ下さい。

電話072173910329

能勢電鉄ケーブル・リフトは、12月4日〜3月16日運休(但し大晦日〜1月3日、2月11日、3月4日は運転)

お習字

詠裡庵

「おばあちゃん、私もやってみたーい」

私が筆を使って、お便りを書いておるときです。孫がそばにやって来て、筆を使って私の手元をじつと見ていました。

「じゃあ、これに書いてごらん」

私は嬉しくなって、筆とこれから書こうとしていた用紙を一枚渡しました。すると、小さな紙に名前をひらがなで、幅いっぱい大きく書いていました。はじめに筆を使うのですから、鉛筆のように書いています。

孫は鉛筆やクレヨンがよく使っていました。役目を終えた包装紙をテールいっぱい広げて、花や人形を紙面のあちこちに書いていました。ところが習字の筆は、鉛筆やクレヨンで書く字と違うことに、

ちよつと興味を持ったのかもしれない。

私は習字がうまいとは言えません。まさか孫に教えることになるとは思いませんでした。

思えば、私が習字を習ったのは小学生の頃でした。バスの乗り降りができるようになり、習字の先生の家まで一人で行くようになったというので、親が習わせようとしたようです。二つ年上の姉と習いに行きました。

どんな練習をしたのか、今となっては思い出すこともできません。ただ、習字の帰りに、自宅の近所にはない本屋さんがあり、雑誌を買うことができたのがとても嬉しい思い出となっています。

あの頃習ったことを思い出しながら、「字を書き出すときには、筆の先を少し押さえてから書くといいよ」

十二月八日はお釈迦様が菩提樹の下で悟りを開かれた日と言われこの日は成道会を行うお寺も多い。

根源的な苦しみを離れるための真理を悟ったお釈迦様だが、最初はその真理が難解すぎて人々が理解できないのではないかと考え、皆に教えを説くのを躊躇

☆☆☆☆星のたより☆☆☆☆

踏されたそうだと。それでも人々を救いたい一心で教えを説かれたのである。

それから遙か長い年月を経て日蓮聖人に伝わり、そしていま私たちがお題目という形でその功德を頂戴している。年の瀬の忙しい時期だが、その有り難さに想いを馳せたい。U.K

俳壇

（みのり）

新らしき箒さらさら落葉掃く

根深汁香りの満つる朝厨

冬の蓄微思ひ出の曲口ずさむ

集りて何を語るか百合鷗

胸張りて年越しの鐘つきに来る

暦のあれこれ

暦と人々（四）

前回までは、暦に日常を支配されていた平安貴族のお話を紹介しました。

では、逆に当時の武士の場合はどうだったのでしょうか。当時の記録を見ると、源平合戦の時なども良い日を選んで軍事行動をしていた事が記されており、やはり武士達も暦の吉凶を信じていた様です。

戦国時代になると、戦いに際して暦や方位に関する知識が兵法に組み込まれていきました。そしてそれらを駆使して、作戦を立てていたのが軍師です。軍師は出陣に際しての卜占や儀式を務め、暦に精通して日々の吉凶を見る重要な存在となりました。

しかし、さすがに戦国の武将や軍師は戦いに勝つ事を目的としている為、平安貴族の様に暦の吉凶に縛られず、時と場合にに応じて判断を使い分けていたようです。